

我が市政を問う！

一般質問

監査委員が指摘

ふるさと納税基金処理のミス

令和7年度決算に関し、監査委員から指摘がありました。
監査委員は、審査意見書の中で「形式収支、実質収支ともに前年度から大幅に増加したのは、一般会計で収入したふるさと納税寄附金8億9041万円を陸前高田がほぼつべし応援基金に積み立てを行うべきところ、その処理を失念したためであり、本来であれば実質収支は1億7035万円の赤字となり、実態に即した決算数値とは言い難いことから、地方自治法で定められている会計年度独立の原則を踏まえた適切な事務執行に一層留意されたい」と指摘しました。

本来、ふるさと納税寄附金は、市が行う子ども支援のための事業や給付型奨学金事業はじめ10事業を行うために全国から寄付されているもので、7年度は総額8億9041万円の寄付がありました。これらは8年度に行う10事業のための財源となるものでした。
しかし、がんばつべし応援基金に積み立てるはずのものが積み立てられず、地方自治法の規定によつて繰越金とみなされ、財政調整基金に積み立てられました。
決算審議では、議員からも制度に則つた行政事務を行うよう求めたところです。

議選監査委員と決算審査意見書に関し意見交換

今定例会において、新たな試みとして、議選監査委員との決算審査意見書に関する意見交換を実施しました。

議選監査委員とは、議員の中から1人が選任される監査委員で、市の財務状況や事業が適切に行われているかを監査する役割を担います。本市議会では、木村聡議員が選任されています。

今回は、9月3日の全員協議会の中で、監査においてまとめられた決算審査意見書をもとに意見交換を行い、決算審査をより深めることを目的に、この取り組みを実施しました。

木村委員からは、ふるさと納税寄附金の基金への積み立て漏れの問題に関する見解や、実質単年度収支の赤字が続いている

ことへの危惧、近年減少していた市債残高が増加に転じたことなどについて説明がありました。

出席議員からは、歳出削減策や今後の財政見通しについて質問があり、活発な意見交換が行われました。

今回の意見交換を通じて、決算審査意見書の内容をより深く理解するとともに、市の財政状況や今後の課題について認識を共有する機会となりました。



意見書の説明をする木村監査委員



うのうら まさなり
鵜浦 昌也
(創生会)

自治会活動どう支える

支援事業を通して検討中



こちらから視聴できます

問 地域活動を担う町内会や地区コミュニティ推進協議会が役員のなり手不足など、様々な課題を抱えている。行政とのパイプ役でもある自治会への支援策をどのように考えているか。

答 本年度から新たな自治会の在り方などを具体的に模索する「コミュニティ支援事業をスタートさせた。自治会の運営状況や事務負担の把握、持続可

外国人観光の対策は

問 外国から「みちのく潮風トレイル」などに訪れる観光客（インバウンド）をどのように受け入れるか。

答 ネット上の「高田旅ナビ」にトレイル専用ページの英語版を作成し、外国人ハイカー向けの情報発信を強化する。また、市内の施設やサービスを掲載した英語版ガイドマップを作成するなど、本市を訪れる外国人旅行者の誘客と市内周遊を促し、滞在時間の延長や観光消費の拡大につなげる。さらに、本市ならではの魅力を生かした受け入れ環境と観光商品の充実に取り組む。



毎年自治会が主催して開かれている敬老会